



当時のことを知り、平和について考える

原爆が投下された直後すべて木は燃え尽きてしまったと考えられていました。この3本のアオギリの木は、翌年の春に発見されました。当時家や生活、家族を一瞬にして失い、辛く悲しい思いをした被爆者たちにとって、この3本の木は心の支えになったと感じました。そしてもう一つ特に印象に残ったの

は、相生橋です。相生橋は、広島原爆投下にとっても関わりのあるものでした。広島は、もともと原爆投下実験場所の一つになっていましたが、その目印になったのが相生橋でした。T字の形をしていたので、上空からでもはっきりと見えたそうです。〈下中 ^{みやした}宮下 ^{はな}花菜〉※アオギリの木について（下欄参照）

五感で感じる

この鐘には世界地図が描かれています。ですが普通の地図と違う点があります。そう国境がないのです。国があると戦争が起こります。そのため、この鐘には国境がないのです。そしてもう一つ、木で撞くところに核兵器のマークがあり、それを撞くことで核がなくなることを祈る、そんな意味のある鐘です。鐘を撞いてみて、ぼくは「とてもきれいな音だ」と思いました。この音が平和の音だとしたら、この音がいつまでも響くことを願います。〈社中 ^{まつばやし}松林 ^{りんいち}凛一〉



自分に何ができるか考える

この写真をご覧ください。これは原爆が落ちた跡地です。ここだけではなく、かなり広い範囲がとばされてしまったそうです。原爆を受けた恐ろしさが伝わるように、この場所だけが当時被害を受けたままに残されているそうです。他の場所は失われた土地を取り戻すために、広島の人たちが苦労して土や石などを運んできたそうです。このことから原爆の恐ろしさはもちろんですが、広島の人たちの団結力の強さを感じました。〈下中 ^{いぐら}伊倉 ^{ひろや}大哉〉



被爆者の思いをくみ取る

被爆者の中には、被爆当時のことを思い出したくないという人もたくさんいます。被爆者体験コーナーで話して下さった朴さんは、私も話したくない。でも話を聞いて、心を動かしてくれる人がいるから話すとおっしゃっていました。被爆者の方が若い世代の私たちに求めているのは、同情なんか



ではなく、このような悲劇はもう二度と起こしてはならないと思ってもらうことだと思います。この体験を次に語り継ぐのは若い世代の役目です。文化祭で、平和学習に行かなかった他の全校生徒に、広島の思いを詳しくくみ取り、伝えていこうと思います。〈社中 ^{おぐち}小口 あやね〉

※このアオギリの木の種から育てられた苗木は、アオギリの木二世として全国各地に配られ、下諏訪町にも平成24年に図書館横のあすなろ公園の一角に植えられました。

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

私たちには忘れてはいけない日があります。

その一つが8月6日です。8月6日午前8時15分に広島に原爆が投下されました。原子爆弾の炸裂により多くの尊い命が奪われました。

広島に原爆が落とされ72年がたった今、私たち中学生が被爆地である広島の地へ実際に行き、実物に触れ、被爆した方から直接話を聞くことには大きな意味があると思います。この貴重な2日間の研修を終え、研修生8人がそれぞれ感じたことを発表します。



聞いて感じる

ぼくの研修テーマは「聞いて感じる」です。被爆者の方やボランティアの方のお話を聞いて、まだぼくが知らないことがいっぱいあり、すごく勉強になったところがあったけれど、その話の中では恐ろしさが伝わってきました。今回広島に行って、まだまだ自分も知らないことがいっぱいあると思うので、機会があったら広島のことや戦争のことをもっと知り、ぼくも平和を願っていきたいです。〈社中 小松 成弥〉



肌で感じる

この女性は朴さんといいます。朴さんは、実際に原爆を体験した方です。8月6日の原爆が落ちた時は、疎開途中で、電車に乗っていたそうです。B29が飛んでいるのに気づき、爆音と光が見えその瞬間に電車が爆発を起こし慌てて外に出たら暗く、上半身血だらけの人がたくさんいたそうです。…最後に朴さんは、「平和をあなたたちが守る」と言っていました。ここで感じ取ったことは、今の自分たちにしかできないことがあるということです。私たちが平和を守っていく！〈社中 山田 ほのか〉



当時の様子を知り、平和な世の中を未来へつなぐ



これは平和公園敷地内にある原爆の子の像です。佐々木禎子さんを記念して、同級生などの募金活動によって作られたそうです。禎子さんは、小学校6年生の時に白血病と診断され、入院を余儀なくされました。病院では、折り鶴を千羽折れば元気になると信じて、鶴を折り続け、8月の下旬には千羽を超えました。しかし千羽以上折ったものの、病気は回復することなく、亡くなりました。禎子さんが必死に最後まで生きようとしていたことが分かりました。

ただでなく、被爆して亡くなった人の思いを、自分たちは伝えていかなければなりません。〈下中 徳永 祐岳〉

原爆を知る、目を背けず日本で起きてしまった全てのことを学ぶ

原爆について被爆者である朴さんのお話を聞く機会がありました。…原爆とはなんと残酷で非情な爆弾だったのか。この広島、日本にはたくさんの命と悲しみから作られた平和がある。この平和を守らなければならない。私はこの言葉を聞いたとき、鳥肌が立ちました。私は、このたくさんの命と悲しみから作られた平和を守りたい。守っていかなくてはならないのだと、強く思いました。〈下中 兒玉 佳那子〉



赤砂に嫁いで

西赤砂

藤森 リカ セブティアニ



インドネシア共和国ジャワ島出身、西赤砂在住の、リカ セブティアニです。日本に来て今年で十四年目になります。

来日当初はインドネシアとは全く生活習慣が違ったため、生活していられるかどうか不安でした。しかし、ご近所の方々がとても親しくしてくださり、地域の行事などに誘ってくださったりおかげで、地域に溶け込むことができました。本当にありがたかったです。私が異国の地で元気に積極的に暮らしていられるのは、優しく思いやりのある地域の皆さんが、いつもあたたかく見守ってくださっているか

らなのだ
と、いつも感謝しております。



日本とインドネシア

私の嫁いだ赤砂で、毎年楽しみにしている行事が二つあります。

一つ目の夏祭りでは、皆さんの歌うカラオケを聞きながら楽しくお酒を飲むのが楽しみです。ムスリムが九十%を占めるインドネシアでは、イスラム教の戒律によりお酒を飲む習慣がありません。ですから、私が日本でお酒を飲んでいると父が知ったら、きつと叱られるでしょう。インドネシアでは、小学校から

イスラム教の授業があり、私の父は、おとしし定年を迎えるまで、その教師だったのです。優しい父ですが、しつけに関してはとても厳しく、ハラル（正しい）と専門機関から認定されたものしか口にすることはできませんでした。お祭りで売られ、私がお好きなジャンボフランクも、豚肉を使用しているため本当はNGです。

二つ目の歩け歩け大会ですが、これは赤砂崎から徒歩で諏訪市の遊覧船乗り場まで行き、そこから遊覧船に乗って帰ってくるという行事です。七十歳以上の方も多く参加されていて、日本のお年寄りも元気だなぁと毎回感心させられます。インドネシアのお年寄りより十歳以上は若く見えます。地域の方と色々なお話をする中で、昔の赤砂を知ることができたり、子育ての勉強になったり、また、遊覧船から下諏訪の街を眺めることができたりと、私にとって、健康づくり以外の楽しみもたくさん詰まった行事です。最初に参加した時、娘が三歳だったので、

ベビーカーを押して参加した記憶がありますが、その娘も今年で十歳。娘も私も地域の方々に育んでいただいていることを実感しながら、毎年参加しています。

赤砂には、赤砂子供木遣いや、諏訪神童太鼓など、地域で子供を育てようという活動がたくさんあります。私の娘も参加させていただいています。習得しなければならぬ習い事としてではなく、友達と楽しみながら伝統文化に触れ、そんな中で下諏訪の伝統が継承されていることに、素敵だなと感じながら、



毎回見学させていただいてます。また、一本柳神社の隣を、
 蛸の舞う公園に整備する計画も
 進んでいて、公園内で子供達が、
 赤砂特産のりんごの栽培を体験
 できるようにしたいとの構想が
 あるようです。私は赤砂のりん
 ごが大好きなので、伝統文化と
 ともに、りんごの栽培も、未来
 に引き継いでいってほしいです。
 常夏の国インドネシアではリン
 ゴは超高級品。日本に来るまで
 あまり食べたことがありません
 でした。でも、赤砂では、スー
 パーで売られているよりも数倍
 おいしいりんごが、無人販売で
 売られています。今年も、りん
 ごの時期が待ち遠しいです。
 まだまだ書ききれないほどた
 くさんの魅力がある赤砂の未来
 は、子供たちが創ります。私た
 ちが今できることは、この豊か
 な環境を次の時代につなぐこと
 私も、インドネシアから嫁いだ
 一人の下諏訪人として、大好き
 な下諏訪の未来を、郷土愛あふ
 れる皆さんと一緒に、創ってい
 けたらと思います。

健康スポーツ都市宣言記念

下諏訪ギネスに挑戦！2018

参加
無料



体力年齢がわかるカラダチェックコーナー

●日時：8月19日(日)

午後2時00分～午後4時30分

●場所：下諏訪体育館 アリーナ

下諏訪ギネスに挑戦！

7段階の年齢層（未就学の部～70歳以上の部）に分け、
 全6種目の記録更新を目指します。
 記録を更新された方には、「ギネス認定証」が贈られます。

体力年齢がわかるカラダチェックコーナー（先着30名）

- ☆体力測定：握力・柔軟性・脚瞬発力の3要素チェックなどや
まびこスケートの森スタッフが測定、解説します。
- ☆カラダチェック：内臓脂肪レベル・部位別筋肉量を測定します。
一目で分かる結果シートを全員にプレゼント！

※小学生未満は、大人の付き添いが必要です。



6種目で記録更新を目指せ！

問合せ先
 下諏訪体育館 TEL 0266-27-1455

宝くじふるさとワクワク劇場 in 下諏訪町

～町制施行125周年記念・下諏訪総合文化センター開館30周年記念～

平成30年9月22日(土) 下諏訪総合文化センター(やまびこホール)

開場：午後1時30分／開演：午後2時

入場料金：2,000円(当日2,500円) (全席自由・消費税込) ※宝くじの助成による特別料金

○お笑いオンステージ：出演者(オール阪神・巨人、ホリ、村上ジョージ、林家正蔵)

○ほのほのコメディ劇場：吉本新喜劇メンバーと地元の皆さんが共演！

参加者募集！公開オーディションにて出演者を決定！（年齢・性別制限なし）

公開オーディション 平成30年9月15日(土) 午後2時より

会場：下諏訪総合文化センター(あすなろホール)

ハガキ、FAX、メールにて下記まで応募してください。

(住所、氏名、性別、年齢、電話番号を明記)

〒393-8501 長野県諏訪郡下諏訪町4611-40

下諏訪総合文化センター「宝くじオーディション」係

FAX：0266-28-0131 Eメール：syougai@town.shimosuwa.lg.jp



湖畔の散歩

東赤砂 征矢 明子



朝6時、楽しい音楽が下諏訪の街に流れます。夫と私は毎日それを合図に散歩に出掛けました。いつも同じ時間に諏訪湖のほとりを歩いて行くと、同じ顔ぶれの人たちに出会えます。



私たちが勝手にクロさんと名付けた人が湖を一周して戻って来ました。途中で手に入れたから、とあみずをくださったので、あとから、これってよその家の木から？こつそり？と想像してちよつとワクワクしました。

時々見かけ

る自転車の女性も気になりました。あの人、どこに何をしに行っているのだろうと二人で真剣に考えました。姿勢の良



さも、和風の服装も荷台に着けた小さな籠も、独特な雰囲気がありました。とうとうお産婆さんと決めてからその人の名前は「うめさん」になりました。「雨がパラついて来ましたね」と声をかけてくれたついでに「パラリンピック」と言いながらすれ違った初老の人を見送っている、思いがけず片足を高く上げたのでびっくりしまし

た。それ以後私たちはその人を「パラリンさん」と呼んでいました。

老犬を労りながら、何度も立ち止まっている男性の優しい姿に癒され、鈴を鳴らしながらまっすぐ走って来るいつもの子犬に会うと楽しくなりました。小さな男の子が走ってきたのを見て夫が「おっ、速い速い」と応援すると、走りながら「じいじ、バイバイ」と言ってくれたので孫のいない私たちはすっかり幸せになりました。ボート部の少年少女や、メガホンを持った先生とも会釈を交わす仲間になりました。若者たちは、ドキドキしながら過ごした青春の日々を思い出させてくれました。

一日中雨で出掛けるのを諦めていた日、夕方になって「やっぱり行こうか」と傘をさして歩き始めたことがありました。湖に出たときに雨が上がり、目の前に美しい虹が現れました。思いがけないプレゼントを見つめて立っていた二人の時間は宝物になりました。

街の中に大きな湖があるなん

て驚きです。

下諏訪に住んで二度目の冬、四羽の白鳥が私たちのすぐそばまで来てくれました。たった一度の嬉しい出来事でした。

十年前、たくさんの思い出を残して、夫は逝ってしまいました。悠然と空を舞うトンビ、美しい白鷺、かわいい鴨のヒナたち、キラキラ輝く湖面、みんな夫が大好きだった風景です。もしかして、私の隣に並んで歩いてくれたりしてね、と空想しながら、今は一人で諏訪湖の風に吹かれています。



公民館特別展

「満蒙開拓を知る」

期 日：8月13日(月)～8月17日(金)
 会 場：下諏訪総合文化センター1階 展示コーナー
 内 容：パネル展示

町民総合文化祭 参加団体募集

参加申込用紙は文化センター内公民館窓口にあります。 ☆新規参加団体歓迎

	開催日	申込締切	対象者
作品展	9月28日(金) ～9月30日(日)	8月24日(金)	町民および町内の 各種団体・学校 ※作品展は個人も対象となりま すので、ご相談ください。
芸能祭	9月30日(日)		
音楽祭	10月28日(日)	9月7日(金)	

〈お問い合わせ・申込先〉下諏訪町公民館 ☎28-0002

町民大学 下諏訪を学ぶ ③

「日本考古学史上における星ヶ塔遺跡の価値」

～日本遺産に認定された星ヶ塔遺跡～



講 師：宮坂 清 諏訪湖博物館・赤彦記念館 館長
 日 時：8月26日(日) 午後1時30分～午後3時00分
 会 場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可(受講料100円)

国史跡に指定された星ヶ塔遺跡は、大正9年4月、東京帝国大学人類学教室の鳥居龍蔵の調査によって発見されました。近代学問としての日本考古学は、明治10年のエドワード・S・モースによる大森貝塚の発掘調査に始まりますが、歩みを始めたばかりの明治期の考古学の中で、信州の黒曜石はすでに関心を集めていました。当時の研究者たちは黒曜石にどのような関心を持ち、どのような調査研究が行われて来たのか。明治・大正期の研究の歩みを振り返り、星ヶ塔遺跡が日本考古学史上でどのような役割を果たしたのかを考え、あらためて星ヶ塔遺跡の価値を探ることにします。

お問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002

ハルモニ

今年も終戦の日がやって来ます。

戦争と聞くと私は、祖母から聞いた、下諏訪に住んでいてもいつも空腹で、野山の雑草を食べていたこと、学徒勤労動員で、女学校に入学したけれど毎日畑仕事の手伝いで全く勉強できなかったという話や、東京に住んでいる祖母の友だちの、空襲で一面の火の海の中を逃げまどい、親とはぐれた子どもが泣き叫びながら親を探していたという話を思い出します。

こんな戦争のさなかに私が生まれていたらどうだっただろう。

私は先天性の障がいをもっていません。親からは、「生まれてすぐに手術をして、やっと命がつかった」、そんな話を聞いています。焼け野原になったところに、病院も医者も無いに等しかったでしょう。徴兵などで障がい者のめんどうを見ることができる人がどのくらいいたでしょう。自分や自分の大切な人が障がいをもってしまっても増えたでしょう。私は今、この平和な時代に生まれてきたことをしあわせに思います。

戦争は人権が無視された時代です。実際に戦争を体験された方々が少なくなつた今、そんな時代にならないためにも、終戦の日にはもう一度戦争の話を家族や知人から聞いてみてはどうでしょうか。

(相澤 崇)